



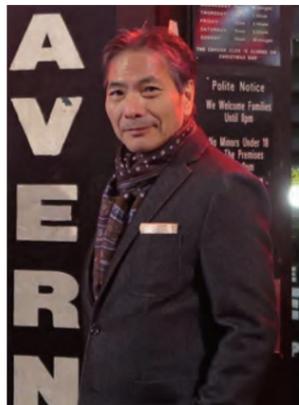
ビートルズの代表ヒット作、「ア・ハード・デイズ・ナイト」にちなんで「Hard Days Night Hotel」は、出身地リバプールの中心部に建つ重厚な名門ホテルである。世界で唯一の「ビートルズ ホテル」と断言して良いだろう



「Hard Days Night Hotel」の正面ファサード。ヴィクトリア朝時代の1884年に建設された歴史的な重要建築物「Central Building」を改装して2008年にホテルとしてオープンした



建物の壁面にビートルズ4人の巨大なポートレートを掲げている。実に、宿泊客の70～80%は海外からのビートルズファンのゲストと言われる



筆者 小原 康裕
国際ホテルジャーナリスト

慶応義塾大学法学部法律学科卒。
1974年 Munich Re 入社。
2001年投資顧問会社原健設立、
代表取締役 CEO。
JHRC、日本ホテルレストランコンサルタント
協会常務理事。
SKAL International Tokyo、
Professionnels du Tourisme 会員。
JARC、日本宿泊施設関連連合会
アドバイザーボードメンバー。

www.jhrc.com/worldhotel/?cat42
www.hoteresonline.com
<https://www.facebook.com/yasuhiro.obara.16>

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。



ロビーラウンジ奥にはバーカウンターがあり、ボトル棚の上には若き日の彼らが、ここを拠点にして世界に飛翔して行なったビートルズの写真を掲げている



レセプションデスクもユニークで、背後や側面に4人の写真、天井には多くのレター類が飾られている



ドアマンに重厚な正面玄関の扉を開けてもらい館内に入ると、エントランスホールには数々のビートルズ関連ポスター、そしてBGMにはもちろん彼らの曲が流れている

Hard Days Night Hotel

世界で唯一の「ビートルズ ホテル」と断言してよいだろう。ホテルも彼らの代表ヒット作、「ア・ハード・デイズ・ナイト」にちなんで名称、「Hard Days Night Hotel」と実に洒落ている。このホテルはビートルズの出身地リバプールの中心部に建つ重厚な名門ホテルでもある。ヴィクトリア朝時代の1884年に建設された歴史的な重要建築物「Central Building」を改装して2008年にホテルとしてオープンした。建物の壁面に彼らのポートレートや演奏している4人のブロンズ像が掲げられ、ゲストはここに宿泊す

る高揚感に満ちてくる。宿泊客の70～80%は海外からのビートルズファンのゲストと言われ、たとえビートルズを知らない世代でも、思わず全盛期の彼らに圧倒されるであろう。

ドアマンに重厚な正面玄関の扉を開けてもらい館内に入ると、エントランスホールには数々のビートルズ関連ポスター、そしてBGMにはもちろん彼らの曲が流れている。もうここはビートルズの世界であり、ファンとしてはテンションが一気に上がる瞬間でもある。グランドフロアから最上階の5階まで螺旋階段が続いており、その壁面にビートルズの数々の懐かしい写真が全面に飾られている。階段を上る順に彼らの歴史を追えるようになって



山高帽に燕尾服のドアマンが正面エントランスに立つ



建物の壁面上部に4人の演奏している姿のブロンズ像が掲げられている



メインダイニング「Blakes」の窓一面に、各界の有名人のポートレートが掛かっている



メインダイニング「Blakes」の店内。外から直接入れるので、食事だけを楽しむゲストも多い



グランドフロアから最上階の5階まで螺旋階段が続いており、その壁面にビートルズの数々の懐かしい写真が全面に飾られている



彼ら4人から名付けられたバー「Bar Four」。地階にあり、多くのビートルズの写真が飾られている

おり、まさにお宝ともいえる写真は圧巻である。

レセプションデスクもユニークで、背後や側面に4人の写真、天井には多くのレター類が飾られている。全部で110ある客室の中には、「John Lennon Suite」と、「Paul McCartney Suite」の二つのスイートルームがあり、今回はいちばん人気の「John Lennon Suite」を紹介したい。オフホワイトを基調としたシックなコーナースイートで、リビングルーム中央に純白のグランドピアノが置かれている。ドアノブには「Do not disturb」の「Let it be」、「Make up room」の「I need you」と、彼らのヒット曲に合わせた札が用意され、英国流の上品なユーモアを感じさせる。口

ビーラウンジ奥にはバーカウンターがあり、ボトル棚の上部には若き日の彼らグループの写真が掲げられている。また、メインダイニング「Blakes」の窓一面に掛かるポートレートの数々も興味深い。

リバプールは最盛期80万人近い人口を抱え、イギリス有数の工業都市・交易都市として栄えたが、戦後は急速に斜陽化し、街は疲弊していった。そんな時代に彼らはここを拠点にして世界に飛翔していった訳だ。ビートルズが駆け出しの頃に出演していたライブハウス「Cavern Club」のある「マシュー・ストリート」もホテルの横にあり、往時を偲んで歩いてみるのも一興だ。



「John Lennon Suite」のリビングルーム。オフホワイトを基調としたシックなコーナースイートで、中央に純白のグランドピアノが置かれている



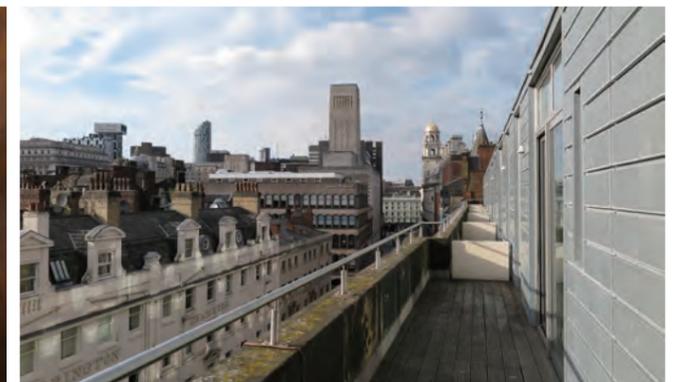
「John Lennon Suite」のエLEGANTなベッドルーム



ジョン・レノンの大きなポスターを飾ったシッティングエリア



ドアノブには「Do not disturb」の「Let it be」、「Make up room」の「I need you」と、彼らのヒット曲に合わせた札が用意され、英国流の上品なユーモアを感じさせる



「John Lennon Suite」にはテラスが付帯し、リバプール中心部を俯瞰できる